

## 10期再発見！何でも見てやろう ミホミュージアム 1班・2班合同見学

2022年9月27日（火） 池上 憲治

今回は、観光バス3台による120名全員参加の訪問でした。

ミホミュージアムという名前は、団体の創始者である小山美秀子（コヤマミホコ）さんの名前に由来していて、美術館に展示されているものは彼女の美術品コレクションです。MIHO MUSEUMは、1997年11月、滋賀県信楽の自然豊かな山間に開館しました。創始者・小山美秀子（こやまみほこ：1910-2003）さんの「美術を通して、世の中を美しく、平和に、楽しいものに」との思いからはじまったコレクションは、多彩な日本美術とともにエジプト、西アジア、ギリシア、ローマ、南アジア、中国などの世界の古代美術を擁しています。



パリ・ルーヴル美術館ガラスのピラミッドなどをてがけたI.M.ペイの桜に包まれた遊歩道からトンネルと橋を経て美術館へと至る構想は、中国の古典、陶淵明（とうえんめい）の「桃花源記」に描かれた桃源郷がモチーフになっています。それは、一人の漁師が芳香漂う桃花林に導かれるように彷徨い込んだ洞窟の向こうに、理想の楽園が広がっていたという物語です。その里では誰もが楽しそうに暮らし、漁師を家に招いてもてなしたといひます。

四季の彩りあふれる現代の桃源郷で、美しい自然と建築、美術品、そして食の織りなすハーモニーを充分堪能できます。



小山美秀子さんは

1910年大阪で生を受け、日本の四季の行事やしきたりを大切にする家庭に育ちました。女学校卒業後、情操的なものに憧れて東京の自由学園に進学した小山さんは、キリスト教精神を背景とした「人としてこの世に生まれた以上は社会に奉仕すべきである」という教えに深く感銘を受けます。また、寮生活を通じて学んだ「生活即教育」「独立と協調の精神」は、その後の人生の基盤となりました。そして美しいものを求め、それにふれることは精神の高みをもたらし、ひいては美しい社会をうみだす—その信念のもとに、世界の平和と幸福のために生涯をささげました。



ミホミュージアムに着くと、電気自動車でエントランスホールへ向かいます。入母屋風の構造のガラスの屋根から太陽光を採り入れ、明るい館内からは周りの森のパノラマビューが広がります。イアホンガイドを借りて、館内にある約250点の世界の古代文明の美術品を観覧して行きます。いずれも金色や銀色等に輝く精巧な宝物で、日本の物であれば国宝級と思われれます。



古代エジプトの銀無垢の「隼頭（じゅんとう）神像」やギリシャ・ローマの石板「精霊と従者浮彫」、南アジアの高さ2m半の「ガンダーラ仏立像」、中国・西域の「メダイヨン・動物文絨毯」等を音声ガイドで聴きながら巡って行くと、知らぬ間に時間が過ぎ去っていました。

